

# JSQCニュース No.212

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (助)日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話 03 (5378) 1506  
ホームページ: http://jsqc.i-juse.co.jp

## 基準・認証制度見直しの考え方

— 産業構造審議会基準認証部会 —

中央大学 宮村鐵夫

### 1. はじめに

通商産業大臣の諮問機関である産業構造審議会では、基準認証部会を設置し、平成10年以降、基準・認証制度の在り方について検討を進め、本年1月通商産業大臣に答申を行っている。答申にそって現通常国会に「通商産業省関係の基準・認証制度等の整理及び合理化に関する法律案」が提出されている。

平成9年の製品安全研究会座長当時から制度見直しに関係している経緯もあり、答申内容を報告させていただきたい。

### 2. 基準・認証制度の見直しに対する社会的要請

#### (1)規制緩和と基準・認証制度見直し

経済構造改革推進計画フォローアップ(平成9年12月閣議決定)では、

- ①政府の規制は必要最小限
- ②技術進歩へ柔軟かつ適切に対応できる制度
- ③国際整合性に配慮したシステム

にする必要があるとしている。また、規制緩和推進3か年計画(平成10年3月閣議決定)では、基準・認証制度について

- ①自己確認、第三者認証への移行等による政府の直接的な規制の最小限化
- ②認証・検査業務等の競争原理の導入
- ③適切な場合における性能規定化
- ④国際相互承認の推進 等

を基本に見直し、速やかに所要の処置を講じるとしている。

#### (2)安全にかかわる規制の見直し

上記方針を踏まえ答申では、製品安全や産業保安の安全レベル等の維持・向上を資することを前提に、

- ①規制、手続きの合理化により事業者の負担軽減、高コスト構造の是正支援
- ②民間能力の活用等による運用効率化

③技術革新のインセンティブを高め、産業活動の活性化

④グローバルな活動に対する環境整備の方向で制度を見直すとしている。

### 3. 基準・認証制度の整理・類型化

#### (1)認証手続きの5つの類型

- 認証等の手続きを、
  - タイプⅠ:政府が実施主体となる認証
  - タイプⅡ:政府が指定機関(公益法人のみ)に権限委任し行う認証
  - タイプⅢ:政府が指定機関(公益法人に限定せず)に権限委任し行う認証
  - タイプⅣ:第三者機関による適合性評価
  - タイプⅤ:事業者自らの適合性評価
- の5つに類型化し、欧米で取り入れられているタイプⅣの認証手続き採用により競争原理の導入と質の高い検査サービスを提供できるとしている。

#### (2)安全基準の4つのタイプ

現行の安全基準は、抽象度に応じて以下の4つに類型化している。

- タイプ①:一般的な安全の要求を規定
- タイプ②:構造、耐熱性、絶縁性等について必要事項のみを規定
- タイプ③:性能が具体的な数値で要求されているが、実現するための材質や構造等の仕様には制限がない
- タイプ④:要求される性能水準を実現する材質や構造等の仕様を規定

現状技術基準は主にタイプ②~④で、電気事業法における事業用電気工作物等産業保安の一部ではほぼすべての項目でタイプ②の性能規定化がされている。

### 4. 基準・認証制度の見直しに当たっての基本的な考え方及び今後の動向

#### (1)認証等の手続き(政府による直接的関与の必要最小限化)

- ①影響が限定的であるか事業者の安全

確保の能力が高く事故発生の蓋然性が低い場合には、タイプⅤが適当。

②潜在的危険の大きさ等によりタイプⅣを導入することが適当。

③事故等の影響がきわめて大きい場合等は政府認証維持も適当である。この場合でも、可能な限り指定代行機関に解放するタイプⅢの導入を図ることが適当。

#### (2)検査・検定等の業務における民間能力の活用(第三者機関の活用)

国際的には適合性の評価を行う検査機関を認定するためのルール(ISO/IECガイド)が整備され、欧米では民間営利法人であっても第三者機関としての認定がなされており、すべての基準・認証制度で民間企業の参入を可能とすることが適当である。

#### (3)技術基準の性能規定化の促進

技術基準については、仕様規定となっているものについて可能な限り性能規定化を促進し、タイプ②とすることが適当である。

#### (4)国際的な相互承認の推進

国際的な相互承認については、可能な限りすべての基準・認証制度について必要な制度改革を推し進める。

#### (5)事後措置の拡充等

事業者に対する報告徴収、立入検査、改善命令及び製品の回収命令等について、規定の拡充及び整備を行うとともに適切かつ機動的な発動を行うことが重要である。

#### 5. おわりに

見直しの考え方は、通商産業省所管のみでなく、我が国すべての基準・認証制度においても適用し得るとしている。

### 私の提言

#### TQM宣言からの技法開発「関係性分析」

NEC伝送事業本部

エグゼクティブエキスパート 金子龍三

要約:TQM宣言が発表されて、多くの議論がされているが、現在の事業環境下で経営改革を進めるためには、



これらの概念を実務に適用できる技法にする、「技法開発」が企業人としては必要であると考え検討している。ここでは関係性概念について簡単に検討の要旨を述べ提言とする。

現在の不況の背景には幾つかの原因があるが、個人も、企業も、官公庁も強いニーズを持っているわけではないことも含まれている。直接の顧客向けの、特定の製品についての「質」を考えた経営管理では事業としては成功しない。さらに事業の成功「経営の質」という定義についても評価する人も、評価基準も変化している。

自社の「経営の質」としての中長期の繁栄を築くためには、顧客の中長期の繁栄が基礎であり、そのためには関係者の連鎖の概念に基づき、顧客の顧客の要求も検討することが事業成功の秘訣である。顧客の顧客が不明であり、開拓することも必要であることも多い。顧客連鎖全体の期待に合致する「質」を中長期に永続的に提供するためには、従業員や協力先との間の関係も中長期の関係を築く必要がある。その例が中長期のパートナー関係である。

このような関係を構築するためには、関係性の分析とそれに基づく関係管理が重要である。その内容としては、関係者の連鎖を含めたリストアップ、その価値観の分析、その環境条件の分析、その行動の予測と影響の分析、組織の事業方針・価値観から判断した関係者の限定(関係相手の設計)、そしてその関係者との間での共存共栄(Win-Win)関係の構築と実行方法(関係の設計)などの手順が含まれる。これらのことからわかるように顧客満足度、人々の満足度、従業員満足度、ステークホルダーの満足度はこの関係性の分析、調査、設計、管理の下位概念である。このような中長期の繁栄の方法としてのパートナー関係については既に米国ではTQMの方法として確立している企業もある。日本でもTQM宣言の具体化により早期に技法として確立する必要がある。

細野和典氏(審査部 参与審査員 ISO 9000QS-9000 審査員) パネル討論会 細谷克也氏他

定員:200名  
参加費:会 員5,000円(締切後5,500円) 準会員2,500円, 学生(一般)3,500円 非会員7,000円(締切後7,500円)  
申込方法:前出第252回事業所見学会と同じ  
締切日は6月23日(休) (行事案内裏面にも掲載)

## 行事案内

### ●第251回事業所見学会(本部)

日時:6月16日(休)13:30~16:30  
見学先:富士ゼロックス(株) 竹松事業所 神奈川県南足柄市竹松1600  
テーマ:リサイクルカートリッジの品質保証  
定員:30名 ただし、事務器、プリンター等を扱う同業他社およびリサイクル・リフィラー業者の方の参加はお断りします。  
参加費:会 員2,500円, 準会員1,500円 非会員3,500円, 学 生2,000円 当日払い  
申込方法:「品質」誌(4月)に添付の参加申込書に所定の事項をご記入の上本部宛に申込み下さい。

### ●第252回事業所見学会(中部支部)

見学先:天狗缶詰(株)三河工場 愛知県宝飯郡御津町佐脇浜字2号地1-17 (生産品目:うずらの水煮缶詰) 缶詰工場としてはHACCP認証第1号となる予定  
日時:7月2日(金)14:00~16:00  
テーマ:HACCPによる品質管理について  
定員:50名(同業他社の方はご遠慮願います)  
参加費:会 員2,500円, 準会員1,500円 非会員3,500円, 学 生2,000円  
申込締切:6月24日(休)定員締切  
申込方法:中部支部宛にFAXで会員No, 氏名, 勤務先, 所在地, 所属, 電話番号を明記のうえ申込み下さい

### ●第73回シンポジウム(中部支部)

日時:6月30日(休)10:00~16:00  
会場:大府市勤労文化会館くちなしホール  
テーマ:「国際的な品質保証システムとTQM」  
内容:基調講演: 細谷克也氏 品質管理総合研究所 代表取締役所長  
事例講演: 1)アイシン エイダブリュ精密株式会社 藤 多喜治氏(経営企画主査) 2)日本電気株式会社(12:50~13:30) 時田 潤氏 (CS品質推進部 担当課長) 3)日本検査キューエイ株式会社(13:30~14:10)

## The 13th Asia Quality Symposium

## 1999 Osaka 研究発表論文募集

日 時：10月23日(土)

会 場：大阪工大摂南大学創立60周年記念館

## 研究発表募集テーマ

全社品質管理 (TQM), 統計的品質管理 (SQC), 各種品質管理手法 (QFD, タグチメソッド他), ISO, 顧客満足, 工程改善, 信頼性, 商品安全, 人材育成, 経営品質向上, ソフトウェア品質, 情報とその利用 他

## 研究発表申し込み方法

「品質」誌(4月)添付の研究発表会申込書の様式で、発表題目、発表者名(登壇者に○)、所属、要旨(和文500字以内)、発表申込者連絡先(住所、氏名、Tel、Fax、e-mail)を明記の上、日本品質管理学会までe-mailまたはFaxでお申し込みください。

●締切：7月2日(金)

発表申込書が着き次第、国際委員会において審査(Certify)を行い、合格の場合には、Acceptance及び「原稿の書き方」他の資料を送付します。

発表の受付件数は、AQS共催学会の協定に則り、国際委員会が決定します。

●原稿締切は9月20日(月)

〈注意事項〉・発表は英語で行います。

・研究発表は未発表のものに限ります。

問い合わせ先：(株)日本品質管理学会 事務局 (相馬, 阿部)

## 会員の声

## 目に余るTQMに対する誤認記事

ISO 9000の普及の広がりによって、その解説書・ガイド等が多く出されている。

これらの中でISOを、TQC、TQM(以下TQMと記す)と比較しているものが散見される。ところがその内容は、TQMに対する知識不足や誤解(?)によると思われるいくつかの誤った考え方が記述されている。

『誤りの例1：ISOは「トップダウン」であるが、TQMは「ボトムアップ」』  
TQMにはTを冠しており、基本的にトップダウンである。(実施面でミドルアップ、ボトムアップも含むだけのこと)  
『誤りの例2：TQMは「以心伝心型」, 「あうんの呼吸」』

TQMを行っていない会社は、そうかも知れない。TQMは「あうんの呼吸」ではなく、データに基づいて論理的に意思疎通を図る。

『誤りの例3：ISOは「論理的考え方」であるが、TQMは「情緒的考え方」』  
「TQMが情緒的」とは中傷である。TQMは、科学的・合理的・創造的な考え方を尊重する。

最近品質管理を知らない人もISOに参入して来ており、このような誤りが信じられてしまう懸念がある。TQMに係わる者として、この状況を是正しなければならないと思う。田中美文(テクノソフト)

## 第242回事業所見学会(中部支部)

## 「関西電力(株)若狭支社」ルポ

8月26日(水)、第242回事業所見学会が福井県の敦賀半島に位置する、関西電力(株)美浜発電所において「原子力発電所の品質保証活動について」をテーマに開催された。当地には核燃料サイクル開発機構や日本原電の発電所も立地しているが、

当発電所は豊かな自然と見事に融和して立地している。この美浜発電所には3機のプラントがあり、その1号機は日本最初の加圧水型商業炉として昭和42年8月に着工し、昭和45年の日本万国博に「原子の灯」として送られた。当日は、まず最初にPRセンターにおいて美浜発電所の概要についての説明を受けた。この中で、安全性をきわめて重視した生産(発電)活動と地域社会への貢献をも視野に入れた取り組みが印象的であった。

続く発電施設の見学では、3号機の管理区域内及び中央制御室、1号機タービン建屋等を中心にコース設定をしていただいた。3号機ではチリひとつ無い区域内での入退出あるいは被ばく線量の管理、二重三重のフェールセーフ等、厳重な管理のもとに作業が進められている。また、タービン建屋内では、現在定期検査中とのことで、タービンの解体検査の状況を見ることができたが、ここでも巨大な附属部品の解体、検査、組立てが整然と進められている。日頃は何気なく使っている電気であるが、厳密な管理のもとで生産されているのを目のあたりにし、感動すら覚えるものであった。その後の「原子力発電所の品質保証について」の説明と質疑では、全従業員の方々の教育・訓練を中心に、保全活動、作業管理も含め、その仕組がしっかり構築・実践されており、定期検査を除けば、ほぼ100%の稼働率の背景をうかがい知ることができる。今回の見学会を通じ「過去の不具合を陳腐化させない様、品質意識の維持・向上をはかる」ための諸活動の実践に直接触れることができたことは、参加各企業の今後の活動を進めるうえで、大いに参考となる見学会となった。

今村士郎(竹中工務店)

## 第243回事業所見学会(関西支部)

## 「キューピー(株)伊丹工場」ルポ

第243回事業所見学会は、9月11日(金)に「基本の実行(良い原料から良い製品を)」をテーマに開催された。

キューピーマヨネーズの名前は広く知られていて、あまりにも私たちの生活の中にとけ込み、今回のように事業所見学会というものがないければ、マヨネーズが加工食品であるという意識さえ持たずにそのままそっと食卓の上につづけていくと思われた。見学者はわれわれ事務局3名を含めて、総勢45名になっていた。

石村工場次長による工場概況説明の中で、キューピーマヨネーズの原料の70%が植物性サラダ油であると知って大変驚いた。あとは、15%が卵黄、残りの15%が酢および食塩で占められている。卵黄は低温殺菌(68℃)で処理され、サラダ油と酢などでかき混ぜながら乳化させられる。キューピーマヨネーズはほとんど生だ!そのため、良い原料を仕入れることに力が注がれていた。特に鮮度が高く品質の良い卵を購入するために産地直送を基本とし、取引先の養鶏業者との信頼関係を重視して、年2回の訪問を欠かさずおこなっているそうである。

工場見学の時に、自動的に卵を割り、卵白と卵黄を分離していく割卵機の様子

は強烈であった。分離の効率は卵の鮮度に依存し、キューピーマヨネーズは卵黄しか使用しないために、鮮度が卵の最重要品質項目の一つになっている。割卵機からでた卵の殻は捨てられることなく、健康食材などに利用される。

キューピーマヨネーズのプラスチック容器にも驚かされた。あの小さな容器の容器壁が3重になっているのである。この多層構造のために、容器はほとんど酸素を通さず、品質の劣化防止に役立っていることを、高山品質管理課長の品質管理実施状況説明の折りに知った。

見学会での最後は杉村HACCP担当課長による伊丹工場でのHACCPプロジェクトの取り組みの説明であった。総合的衛生管理という立場から、トップダウン型で、一般的衛生管理(PP)を基礎として位置づけ、中間に危害分析(HA)と教育・訓練(E&T)を置き、中心にHACCP実行を据えるという枠組みでの明快な説明があった。今回の事業所見学会は、加工食品業界のこれからの見通せる指針となる内容であった。

磯貝恭史(大阪大学)

## 第244回事業所見学会(関西支部)

## 「竹中工務店・阪急ファイブ新築工事作業所」ルポ

11月5日、第244回事業所見学会が(株)竹中工務店・阪急ファイブ新築工事作業所で開催された。阪急ファイブはこの新築工事によってHEP・FIVEとして生まれ変わるが、屋上(実際には7階部)に大観覧車を擁するビルとして、キタの新名所になることが期待されている。

当日は、建物とその工事概要が竹中工務店より紹介された後、早速、オープン前であるにも拘らず、現場の見学をさせて頂いた。

そしてなんと、この大観覧車に全員が試乗させてもらい、最高到達点106mからの箱庭のような大阪の街並み、鉄道模型のような大阪駅等を眼下にした、一周約15分の空中散歩は一時を童心にかえらせ、存分に楽しむことができた。

その後約1時間ほどをかけ、各テナントやこれも注目度の高い石井竜也氏プロデュースのモニュメント(赤い大きな鯨)等を非常に丁寧に説明して頂き、見学を終了した。

引き続き竹中工務店の設計担当者及び、施工担当者より、この阪急ファイブ新築工事の設計及び施工に当たったのコンセプト、信頼性に関する問題点とその対策についての説明を受けた。

竹中工務店としては大観覧車を初めて手がけるのみならず、世界でも類を見ないビルと大観覧車を一体化するという挑戦に対して、「風による観覧車の揺れ」、「地震対策」、「観覧車とビルの接合」、「狭いスペースでの施工」等、多くの克服すべき課題があり、これらの課題を抽出する過程でわれわれにも馴染みの深い、FMEAが使われたとのことである。

信頼性を確保するためにはどのような対象物であろうと、標準化された手法は有効であることを実感した。

このようなすばらしい見学会を開催し

て頂いた竹中工務店に心より感謝します。

このルポを執筆している11月28日は、まさにHEP・FIVEのオープン日である。

明日の日曜日は子供を連れてHEP・FIVEに行き、大観覧車の中でこれらの話をしてあげよう。少し自慢気に。

越山 卓(日本電気ホームエレクトロニクス)

## 行事案内

## ●第72回講演会(中部支部)

日 時：7月8日(火)13:30~17:10

会 場：千代田生命ホール

名古屋市中区丸の内3-21-20

テーマ：経営戦略とTQM

内 容：講演(1)「大学を使って新製品開発、産学協同の経営」

本田洋介氏 本田電子(株)

代表取締役社長

講演(2)「今、経営者に期待されていること」

米山高範氏 コニカ(株)

代表取締役会長

参加費：会 員4,000円、準会員2,000円  
非会員5,000円、学 生2,500円

定 員：200名

申込締切：7月1日(水)、定員になり次第締切

申込方法：中部支部宛にFAXで会員No、氏名、勤務先、所在地、所属、電話Noを明記し申込み下さい。

## ●第13回クオリティパブ(本部)

日 時：平成11年7月14日(水)

18:00~20:30

会 場：日本科学技術連盟高円寺ビル

テーマ：練馬総合病院におけるMQIから見たTQMの陥穽

ゲスト：飯田修平氏 練馬総合病院院長

会 費：会員2,000円、非会員2,500円

準会員・学生1,500円(含軽食)

申込方法：FAXまたは郵便で氏名、所属、連絡先、電話・FAX番号を記入し本部宛FAX03-5378-1507して下さい。定員30名。

●日本学術会議経営管理工学専門委員会  
第15回シンポジウム

テーマ：「エンジニア資格制度と経営工学」

日 時：7月1日(木)13:00~17:40

会 場：早稲田大学大隈小講堂

内 容：(1)国の試験研究機関における研究技術者の養成確保

渡辺一雄氏(科学技術庁科学技術振興局研究振興課課長)

(2)技術者資格と教育認定

海外の現状と日本での動向

大中逸雄氏(大阪大学大学院工学研究科教授)

(3)技術者教育認定制度と経営工学

大滝 厚氏(明治大学理工学部教授)

(4)企業から見たエンジニア資格制度

桑原 洋氏(株)日立製作所副社長)

資料代：4,000円(学生1,000円)資料代は開催当日受付でお支払いください。

定 員：200名

申込方法：「品質」誌(4月)に添付の参加申込書に必要事項をご記入の上、学会事務局にFax又は郵送でお送り下さい。